

温かい和歌山

陳シンイ
交換留学生 中国

心光る人は
必ず幸光る
心躍る人は
必ず幸躍る

一池田大作

初めて日本で勉強することになって、和歌山とは深くて切れない縁を結んだ。そのことを思い出したり、口にしたりするたびに、暖かい気持ちが湧いてくる...

「和歌山」この名前を初めて聞いた時に、よく知らないけれども、柔らかい感じがした。留学する前に、日本へのイメージは、東京と大阪のような大都市の高層ビル、歩行道上の速い足取り、ユニークで目新しいファッション...であった。和歌山に来てみると、紀の川の柔らかい流れ、自転車が通った静かな町、花の世話をしているおばあさんに気づいて、よく熱心に誘ってくれる配達員の Yさんと知り合って...「家」のような温かみを感じた。

「私は幸運だな」と、常に思っている。外国で勉強するのは初めてにしても、たくさんの親切な方と知り合えたからだ。一番感動したことは、私が出会った皆さんが私を惜しまず助けてくれて信じてくれるということだ。

空港に到着して、和歌山行きのバスを待っていた時に、ある優しいおじさんと知り合いになった。バスの中で、私たちは意気投合して、ずっと話した。和歌山市で降りた後、そこで別れると思っていたが、おじさんは車で送ってくれたと言った。「えっ？マジ？こんなことを言ったら失礼だけど...もし不審な人だったらどうしよう?!」とは思った。でも、そんな心配な気持ちはだんだんなくなってきた。なぜかという、このおじさんは会館のアドレスも良くご存知ではないにも関わらず、道を尋ねながら私たちを安全に送ってくれたからだ。

そのことを、他人に話すと、それは大したことじゃないと言われるかもしれないが、そのことを通して、私は和歌山に来た最初の温かみを感じたのだ。

「大きな目標を立て、それぞれの道で最高峰を目指して努力の中でこそ自らの秘められた可能性が解放されていく...」和歌山で初めて友達になった Yさんからいただいた手紙を見ると、初めて花火大会に参加したことを思い出した...

Yさんと出会ったのは、Yさんが中国語で話しかけてくれたのがきっかけだ。そんなにペラペラではなかったものの、親しみを感じた。その後、私とYさんはウィーチャットを交換した。彼が中国語を勉強しているところなので、私たちのチャットの言語はほとんど中国語だ！日本語はまだまだ上手じゃないけど、中国語を教えることに非常に興味がある。

“春の花火大会”のことを知ったのもYさんのおかげだ。彼はわざわざ私と友達を誘ってくれたのに、私たちは色々な心配なことがあって、ずっと迷っていて返信していなかった。後で知ったのは、Yさんと奥さんは花火大会で使う敷物とか食べ物とか事前に準備し

ておいてくれ、さらに手紙まで書いてくれたということだ。結局行ったけど、もし Y さんの熱心な誘いを断っていたら、彼と奥さんは落ち込んだだろう。

花火は音楽のリズムに合わせて、海の上でぱっと咲いてくる。その時から、私は花火の魅力が、単にあっという間の美しさではなく、その花火が咲いた一瞬の迫力だと信じてきた。Y さんご夫妻は、私に普通の家庭の純粋や優しさを感じさせてくれた。彼が教えてくれたのは、善意の心で善意を見て、善良な行為で善意に報いるということだ。

心光る人は

必ず幸光る

心踊る人は

必ず幸踊る

温かい和歌山、ずっと温かいままでいてね！

